

能代市情報活用能力系統表

領域		学習内容	小学校低学年	小学校高学年	中学校
活動スキル	1	記録と編集	写真や動画の撮影、音声の記録ができる	写真や映像、音声の加工・編集ができる	目的や情報の種類に応じてアプリケーションを選択し、活用できる
	2	PCの操作	手書きやフリック等で文字を入力することができる	ローマ字入力ができ、ファイルの管理ができる	協働作業のためにコンピュータを活用できる
	3	ウェブ検索	キーワードで検索できる	目的に合ったサイトを見付け、情報を得ることができる	複数の条件を組み合わせて、自分の得たい情報を検索することができる
	4	図書利用	図書館内で見付けたい本を探すことができる	目次や索引を活用して知りたい情報を見付けられる。	図書・新聞データベースを活用して必要な本や記事を見付けられる。
	5	インタビュー	質問を考えて、質問することができる	下調べをしてインタビューするべき質問を選ぶことができる	相手の考えを引き出すために追加の質問ができる
	6	アンケート	何を聞くか質問を考え、適切に表現することができる	目的に合った質問の形式や内容を考えられる	集計・分析できるように適切な設問文や選択肢を作成できる
	7	メモ	大事だと思ったところを短い言葉で書くことができる	箇条書き、単語でポイントをまとめることができる	書く場所や矢印、強調などで工夫してまとめることができる
	8	口頭発表	(物を見せながら) 適切な声で分かりやすく話すことができる	(資料を効果的に示しながら) 声の抑揚などを工夫できる	(資料を活用しながら) 聴衆とのやりとりなどの伝え方を工夫できる
探究スキル	9	取捨選択	課題解決に役立つ情報を選ぶことができる	自分で必要な情報を選択・判断することができる	信頼性や信ぴょう性を考えて、情報を選ぶことができる
	10	読み取り	一つの資料から視点をもって情報を読み取ることができる	複数の情報から共有点・相違点を見付けることができる	複数の情報から矛盾点や欠けている情報を見付けることができる
	11	創造	情報から分かったことをまとめることができる	情報を組み合わせて新たな意味を見いだすことができる	情報を多面的に捉えて、新たなアイデアを見いだすことができる
	12	伝達内容の構成	伝えたいことの順序を組み立てることができる	相手を説得するために論理を組み立てることができる	目次をつくり、内容を精査して構成することができる
	13	表現の工夫	メディアに応じた表現を工夫することができる	伝えたいことに応じて表現を工夫できる	メディアを組み合わせる工夫ができる
	14	受け手の意識	相手を意識して伝え方を工夫できる	相手の反応を見て、伝え方や内容を工夫できる	相手の関心や前提知識に配慮して伝え方や内容を工夫できる
	15	学習計画	決められた計画に見通しをもつことができる	自分で必要なことを考えて、計画を立てることができる	グループ内で役割分担を考えると計画を立てることができる
	16	評価と改善	自分の学びを振り返ることができる	振り返りを基に、次にやってみようことを考えられる	振り返りを基に、よりよくするための改善策を考えられる
情報モラル	17	コミュニケーション	相手によって受け止め方が違うことを理解できる	自分が発信する情報に責任があることを理解できる	ネットワークの公共性を意識して行動できる
	18	法と権利	人の作った作品を許可無く使ってはいけないことを理解できる	著作権や肖像権に留意して情報を扱うことができる	情報の保護や取り扱いに関する法律を理解できる
	19	健康と安全	情報機器を使ってよい場所や時間を守るができる	情報機器を使う場所や時間を自分で管理することができる	健康に配慮して情報機器・サービスを活用することができる
	20	ルールやマナー	ルールやマナーが必要であることを理解できる	ルールやマナーの意義を理解し、守ることができる	ルールやマナーを創造・遵守することで問題を解決できる
	21	セキュリティ	パスワードの大切さについて理解できる	パスワードを安全に管理することができる	なりすましやウイルスなどの危険を理解できる
	22	個人情報	自他の情報をむやみに他人にもらさないように行動できる	自他の情報が伝わる範囲を考えて行動できる	自他の情報を相手や範囲を考えて管理できる
	23	情報社会の将来	情報社会の特色と便利な点について理解できる	情報社会の中でどう生きていけばいいか考えられる	情報社会がどうあるべきか説明できる